

- Q. 町内産業の活性化を  
 Q. 心身活性化の町づくりに取り組んでは  
 Q. 平成20年度町政を執行の自己評価は

町内産業の活性化を



後木 幸里 議員

**質問** 本町はJR学園都市線終着駅であり、高速都市間バスも毎日運行乗り入れされており、大都市との交通アクセス立地に優位な場所となっている。この優位性をもっと活用すべく住民や諸産業団体が参加する新十津川町産業活性化推進会議（仮称）を発足させ、観光振興や農産物消費拡大を検討しては。

**町長** 町内産業の活性化についてはピンネ農協、商工会、森林組合、土地改良区、建設協会、観光協会等で組織する「産業・経済団体懇談会」を開催し、意見交換、情報交換を通して、現状分析や課題の把握に

努めており、今後もその内容の充実を図ってまいりたい。観光事業については「グリーンパークしんとつかわ」「サンヒルズ・サライ」等、各自努力され入り込み客数が増えるなどの成果があり、今後も観光協会を中心とした本町観光の振興策に対し協力してまいりたい。

心身活性化の町づくりに取り組んでは

**質問** 町長は執行方針に「ほほえみ」「気くばり」「やる気」「やさしさ」に満ちた町づくりを掲げていることから、「心身活性化町づくり協議会（仮称）」を立ち上げ、心身活性化の町づくりに取り組んでは。

**教育長** 我が子への虐待、まったく関わりのない人を殺害するなど、目を覆いたくなる事件が毎日のように報じられていることは大いに憂慮すべきである。ご指摘のように、人間の心が美しく変わっていくけば平和になり、そのような人が増えることにより、今以

上に住みよい町になるとの考えには強く共感する。

**教育委員会**としては、学校教育の充実すなわち「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身につけた子ども育成に全力を傾注しており、また、社会教育の振興により、自らの意志で学習する町民の育成やその学習成果が広く評価される社会を構築すべく事業展開をしている。このような教育行政を町長部局と連携して推進することにより、心身共に健康な町民が住む明るい町になっていくものと思う。



長谷川 秀樹 議員

今年度町政を執行の自己評価は

**質問** 地方分権が進む中、環

境は悪化の一途、厳しい財政運営を余儀なくされる状況下にあつて、果敢に事業を推進し、併せて行財政改革も計画通り着実に実行したと評価するが、今一つ満足度が上がらない。次年度の予算編成を踏まえて、町長の立場としてどう総括しているのか、残された課題は何で、今後どう解決するのか。

**町長** 「ほほえみ、気くばり、やる気、やさしさ」に満ちたまちづくりを実現するため4つの重点施策を掲げ取り組んできました。総括すると、町民の皆さまの多大なご理解とご協力をいただき、おおむね順調に進んでいると考え感謝申し上げます。

大きな課題は「地域生活交通の確保」である。現在、地域公共交通活性化協議会において「地域内交通のあり方」について検討中で、本年度内に計画を策定し来年度実証試験運行を行い、効率的な交通確保ができる運行体制を構築していきたい。

もう一つは、昨今の経済不況進行の本町経済に及ぼす影響が懸念される。顕著な影響